

第43回 武雄市短期経済観測調査（たけお短観）の結果について

下記のとおり「第43回武雄市短期経済観測調査（たけお短観）」を実施し、結果をとりまとめましたので、お知らせします。

結果のポイント

現況のDI値は飲食を中心とした観光・サービス業が全体的に回復しているが、農業については燃料費高騰などで全体的に減少している。
今後令和4年1月から3月にかけての見通しについては、新型コロナウイルス オミクロン株の流行により見通しが立たないという回答が多い。

【武雄市短期経済観測調査（たけお短観）結果】

令和3年12月調査

	前回調査		今回調査			
	A 現況 (R3.6)	見通し (R3.7-9)	調査数	B 現況 (R3.12)	(B-A) 前回現況 との対比	見通し (R4.1-3)
総 合	-41	1		90	-17	24
農業	-10	20	9	-56	-46	0
建設業	-9	-18	10	-10	-1	-10
製造業	-9	0	11	45	55	18
卸売・小売業	-40	8	22	-9	31	-5
観光業	-100	0	11	-45	55	9
飲食業	-80	10	9	0	80	44
サービス業	-41	-9	18	-39	2	-11

- 調査目的 本市経済の景況感をよりの確に把握するため
- 調査対象 武雄市内事業所 100箇所（業種別内訳は上表参照）
- 調査方法 オンラインアンケート、FAX、電話等による調査
- 調査内容 (1)現在の景況感：良い、普通、悪いのいずれかを回答
(2)3ヵ月後の見通し：良くなる、変わらない、悪くなるのいずれかを回答
- 集計方法 (1)現在の景況感(2)3ヵ月後の見通しについて、それぞれ回答数の構成比を求めた上で「良い(良くなる)」の構成比から「悪い(悪くなる)」の構成比を引いて「現況DI」、「見通しDI」として指標化しました。
例えば、現在の景況感の「良い」が10%、「普通」が40%、「悪い」が50%の場合は、-40となります。
「DI」(Diffusion Index、デフュージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標の事で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。